

藤楓文藝

藤

江蘇工業學院圖書館
藏書章

楓

文

藝

平成八年三月二十日 印刷
平成八年三月三十日 発行

藤 楓 文 芸 第27刊 【非売品】

不 許

複 製

編 者 藤 楓 協 会
財団法人

発行者 藤 楓 協 会
財団法人

東京都港区新橋六―一三―一三 辻ビル 三階
電 話 (03) 三 四 三 二 ― 〇 七 二 六 (代表) 千 一 〇 五
F A X (03) 三 四 三 二 ― 〇 七 二 七

『藤楓文芸』第27刊の発行に際して

財団法人 藤楓協会理事長 大谷 藤郎

ハンセン病療養所で闘病生活を送る人びとの中には、障害を克服して、書道、絵画、盆栽、手工芸、陶芸、音楽等の道に精進され、あるいは詩、短歌、俳句、川柳等の文芸作品に没頭されて、とかく単調になりがちの日々の生活に潤いをもたれ、さらには、これに生き甲斐をすら感じている人びとも数多くおられます。

このような文芸作品の優秀作を全療養所から募集し、我が国一流の権威ある先生方を選んでいたいた『藤楓文芸』を昭和四十三年に発刊してから、早くも二十七年を経過し、本年は第27刊を発行することになりました。

この発刊を藤楓協会が続けておりますのは、一つには各療養所におられる文芸愛好の

人びとの交流と励みに役立たせることであり、他面には社会の多くの人びとに一読していただき、ハンセン病療養所に日々を送る人びとの生活をしのび、ハンセン病を正しく理解する運動に参加していただきたいのがその目的であります。

藤楓協会は、貞明皇后さまの御遺志を体して、ハンセン病の正しい理解を推進する運動を中心として、患者さんの慰問等の諸事業を行ってまいりました。そのうち最も主要な行事の一つとして、昭和五十八年からはそれまでの『貞明皇后をしのびハンセン病を正しく理解する集い』に代えて、毎年『貞明皇后をしのぶ在園者慰問激励の会』を実施しておりますが、御生涯をハンセン病対策のために御尽力くださった初代総裁高松宮殿下薨去後は、『貞明皇后・高松宮をしのぶ在園者慰問激励の会』として、総裁高松宮妃殿下、また、総裁御名代として三笠宮寛仁親王同妃両殿下に療養所にお成りをいただき、開催してまいりました。平成七年からは名誉総裁として高松宮妃殿下、総裁として寛仁親王殿下を仰いでおります。

当協会は平成四年に創立四十周年を迎えましたが、この記念事業として、故高松宮殿下を追慕し、また過去百年にわたるハンセン病事情の変遷とその対策事業の歴史を明らかにし後世に資するため関係資料を収集し一般に公開展示する「高松宮記念ハンセン病

資料館」の建設を計画いたしました。総裁高松宮妃殿下のなみなみならぬご尽力をいただき、財界はじめ各方面の御理解と御協力を得てようやく竣工し、平成五年六月二十五日に落成の式典を開催、即日から一般の方々のご高覧に供しております。

全国十五か所の療養所に現在なお五千六百人が入所しておりますが、その療養生活の現状と、つい先日まで不治の天刑病として社会から極度に嫌悪され、悲惨きわまりない苦難の生涯を送らざるを得なかった過去の暗い歴史及びかつてこの病者救済のため貞明皇后さまをはじめ皇室の方々やその一生を捧げられた内外の宗教家、医師、看護婦さんなどの多くの尊い先人の業績を、多くの方々知っていただけるものと思っております。今後とも「資料館」に格別のご理解を賜わり、一層の御援助をお願いいたします。

また、昭和二十八年に制定された現行らい予防法は、医学的・社会的・国際的にみて問題ありとして、ハンセン病患者団体である「全患協」から改正要望が提出されておりましたが、これを受けて厚生省より藤楓協会に研究委託されているハンセン病予防事業調査検討会（座長大谷藤郎理事長）において平成七年四月にらい予防法見直しを行われる必要があるとの中間意見書を発表しました。政府においても同年七月「らい予防法見直し検討会」（座長大谷藤郎理事長）を設置され、十二月には廃止を急ぐべきとの答申が

行われました。これらの要請を総括して現在、政府ではらい予防法廃止のための法案を策定中であり、近く国会に提出する予定で、今春にはらい予防法廃止後の開放された新療養所において自由な生活と療養が保障されることとなります。第二次大戦前後から五十年以上にわたる医学の進歩を考えますならば、これらの諸手続きはあまりにも遅きに失したといわざるを得ません。深い反省を覚えるものであります。

私たちは過去二十六冊において吐露された重みに今さらのように思いをいたすとともに今後の『藤楓文芸』が新しい希望であることを切に願うものであります。療養所に在所する人びとに皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成八年三月

高松宮記念ハンセン病資料館

所在地 東京都東村山市青葉町四―一―三 ☎(〇四二三)九六―二九〇九

交通 西武新宿線久米川駅 } 下車 いずれも南口から全生園經由バス

西武池袋線清瀬駅 } 多摩研究所前下車 徒歩二分

開館時間 午後一時〜四時まで 入館無料

休館日 毎週月・金曜および祝祭日

藤楓文芸 第27刊 目次

序

財団法人
藤楓協会

理事長 大谷 藤郎……………一

詩

那珂太郎選……………九

短歌

岡野弘彦選……………三三

俳句

稲畑汀子選……………九三

川柳

渡辺蓮夫選……………一二三

随筆

那珂太郎選……………一五一

ハンセン病を

正しく理解するために……………一九三

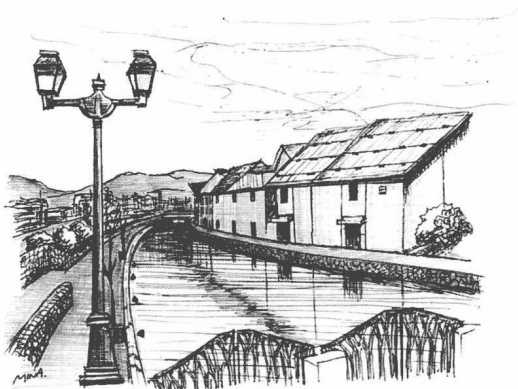
藤楓協会の由来……………一九七

ハンセン病療養所所在地および在所者数……………二〇三

題字 倉永圓清

詩

那
珂
太
郎
選



布団の中で

〈栗 生〉加藤 三 郎

揺れている

区切られた坪庭に咲いた

コスモスの花は

秋日を浴びて揺れている

温かい日差をうけて

ふつくらとふくらんだ布団の模様は
コスモスの花と一つの絵柄になって
庭先で揺れている

夢の中で 小便を漏らした

汚した 布団を外に出し

そっと 乾かしてくれた

母の面影が

コスモスの中で 揺れている

大きなべを吊るした囲炉裏をかこんで

家族揃って語り合った

五十年前のあの頃を

夢の中でもよい

あったかい 布団の中で

こま草

(盲) 栗生 桜井哲夫

療養所の綿打ち工場の屋根に登った

夏の青空に小さな白い雲が遊んでいる

たった今聞いたばかりの敗戦の放送を反芻した

敗れた怒りを胸に抱いて夜明けの道を白根山に登った

眩しい朝の光にこま草の花が咲いていた

火山灰地の中に咲くこま草に